

いわき農林水産ニュース

平成31年4月号(第170号) 発行 4月25日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



今年もきれいに梨の花が咲きました。
8～10月の収穫をお楽しみに！

目次

- ・いわき農林事務所長 新任挨拶……………p.1
- 〔各種取組の実績(3～4月)〕……………p.2～
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー…p.7
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.9
- ・各種注意喚起情報……………p.9
- ・GAP コーナー……………p.10
- ・転入者一覧・新規採用職員からひとこと……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

新年度を迎えて

いわき農林事務所長 新任挨拶

平年よりやや早く咲いた執務室から見える新川土手の桜花の爽やかな薄桃色に迎えられ、この4月1日に人事異動で福島県いわき農林事務所長に着任いたしました松房政彦(まつふさまさひこ)と申します。

いわき市での勤務は11年ぶり3回目となります。しばらくぶりに管内を一巡してみますと田人、三和、川前などの森林の緑、田畑の形状、空の青さに懐かしさを覚えました。都市部、特に小名浜地区をはじめとした、道路や商業施設の変貌には目を見張るものがありました。

東日本大震災をはさんでの10年という月日がものすごい勢いで過ぎたのだということが改めて実感されたところですが、かつてお付き合いさせていただいた農林業に携わる方々にお目にかかり、その変わらぬ熱い思いを伺うと、改めていわき地方の農林業の復旧・復興のために私は何ができるのかを考えさせられております。

2019年度(平成31年度及び令和元年度)に県といたしましては「ふくしま農林水産業の再生・成長産業化」を図るために、「マーケット・インによる流通・販売戦略」、「所得向上を目指した戦略的な生産活動」、「生産活動を支える強固な生産基盤」を柱とする各種施策を展開し、特に「販路の拡大」、「多様な担い手の育成・確保」、「産地の生産力・競争力強化」、「中山間地域の活性化・林業成長産業化」のための各種事業に重点的に取り組むこととしております。

いわき地方においては、その温暖な気象条件を活かした施設園芸(イチゴ、トマト等)が盛んであり、日本梨の海外輸出も行われており、農地の集積を図りながらほ場整備による水田の大区画化が進められ、利用時期を迎えた森林の効率的な伐採が取り組まれており、また、農林産物の生産に関する安全安心を担保するための第三者認証GAPの認証取得が進められております。

今後とも、いわき地方の農林業の復旧・復興を進め、より良いいわき地方の農林業を形成するために、職員一同、関係機関と連携を図りながら、「サンシャインいわき!笑顔あふれる農林業をめざして!!」のキャッチフレーズのもと、一丸となって努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



いわき農林事務所長
松房 政彦

京都・大阪高島屋でいわきのいちご「ふくはる香」をPR〔3月11~13日(月~水)〕

京都・大阪の高島屋で開催された「大東北展」にて、JA 福島さくらいわき地区本部といわき市が連携し、いわきいちご「ふくはる香」のPRを行いました。原発事故後、関東以西における県産のいちごの取扱量は著しく減少しており、今回のイベントをきっかけに、今後の販路拡大や風評払拭につながればとの期待を込め、関西でのPRに初めて取り組みました。

ロットの関係などで生の果実の販売には至りませんでしたが、木村ミルクプラントさんが作る加工品の材料に使



いちごパフェ大人気！
長蛇の列ができました。



(いちごパフェ)

ていただき、福島県のオリジナル品種「ふくはる香」をPRすることができました。

各会場では、「ふくはる香」を使ったパフェが1日100食限定で提供され、午前のうちには完売する盛況ぶりでした。

輸送や品質保持などに問題が残りましたが、高島屋では今後も同様のイベントを継続するとのことで、今回の取組みを機に、いわきいちごや福島県農産物の風評払拭につながることが期待されます。(農業振興普及部)

いわきねぎ部会GAP研究会がふくしま県GAPの団体認証を取得！〔3月14日(木)〕

JA 福島さくらいわき地区本部にて、ふくしま県GAP(FGAP)認証書交付式が行われました。今回認証を受けたのは、「福島さくら農業協同組はいわきねぎ部会GAP研究会」です。いわき地方ではいちご部会に続く2例目のFGAP団体認証となります。

同研究会では、6名の生産者が、年度当初から農場の整理整頓など、認証の準備に取り組んできました。ねぎは、これまでに野菜で認証を受けた例が少なく、各自選別や出荷作業に独自の工夫を

こらしつつ、現場の改善を進めました。また、JAとしても、定期的な巡回や記帳指導など、極力生産者に負担にならないよう、きめ細かな支援を行いました。

ねぎ部会では、今回認証取得した生産者の取組みをモデルに、部会として更に認証者を増やしていくことを検討しています。赤津会長からは「今後も一層いわきねぎの栽培に力を入れて取り組みたい」との話があり、今後もいわきねぎのブランドをアピールする先頭に立っていただければと思います。

(農業振興普及部)



団体認証を取得された
ねぎ部会の皆さん(前列6名)



いわき地方花き講座を開講

〔3月19日(火)〕

県いわき合同庁舎において、第1回目のいわき地方花き講座を開講しました。本講座は、花きの栽培技術や経営概要等について複数回にわたり講義を行い、新たな切り花生産者を確保・育成することを目的としております。

参加者は計11名で、ほとんどは今まで花き栽培の経験がない初心者となります。参加者は切り花業界の全体的な状況や、生産・流通・販売までの一連の流れに關与する技術等について説明を受けました。

本講座は、1年間で全8回を開催する予定です。次回からは、各品目の経営概要や栽培技術の紹介や生産現場の視察等を実施し、各参加者が自分にあった切り花品目を考慮していただく予定です。いわき管内の新たな園芸品目として、切り花が注目されることを期待して、当所は今後も全力を尽くしてまいります。

(農業振興普及部)



(講座を受講している様子)

平成30年度第3回いわき地方GAP推進協議会を開催

〔3月22日(金)〕

県いわき合同庁舎において、平成30年度3回目のGAP推進協議会を開催しました。本協議会は、関係機関・団体及び流通販売関係者が連携し、いわき市内の認証GAPの需要拡大及び取得推進をするために設立されました。

第3回目では、平成30年度の活動報告と今年度の活動計画について協議しました。平成30年度は、農業者を対象にした認証GAP理解促進に向けた研修会のほか、消費者を対象にした認証農場の見学ツアーや販促フェアを開催しました。今年度は、更なる需要拡大に向け、農業者を対象にした研修会を継続するほか、直売所へのGAP認証農産物のコーナー設置や小売店を対象にした出前講座等の新たな事業にも取り組む予定です。

今年度も、皆様に認証GAP取得の理解及び需要拡大に向けて、様々な企画を開催いたします。詳細については随時、本誌でも紹介していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

(農業振興普及部)



(協議会の様子)

水産エコラベル(MELver.2)取得

〔3月25日(月)〕



(マサバ、ゴマサバ)

福島県漁業協同組合連合会がマサバ、ゴマサバ(まき網漁業)でマリン・エコラベル・ジャパン(MEL)漁業認証を取得しました。これは、水産資源と環境に優しい漁業を支援する制度で、(一社)MEL協議会が資源と生態系の保護に積極的に取り組む漁業を認証し、その生産物に水産エコラベルをつけるものです。

MELver.2は国際認証を目指して、昨年度に策定された新しい認証規格で、全国では北海道漁連の秋鮭定置網漁業に次ぐ2番目の取得となります。今後、国際認証として承認されれば、海外でも本県の持続可能な漁業の取組みをPRすることが期待されます。(水産事務所)

いわき市持続可能な森林・林業推進会議を設立

〔3月24日(日)〕

いわきワシントンホテル椿山荘において、市内の林業、木材加工・流通業、建築設計、行政機関等の関係者約30名が参加し、いわき市持続可能な森林・林業推進会議の設立総会が開催されました。当会議は、人工林のブランド化とバリューチェーン構築による森林・林業の活性化を目標に、森林認証によるいわき市の森林のイメージアップと認証材の利用拡大や、森林・林業循環モデルの構築と普及などの課題について取り組む予定です。



いわき市持続可能な森林・林業推進会議の設立総会の様子

設立総会では、設立の経緯や趣旨、規約などについて、事務局となる磐城流域いわき地区林業活性化センター事務局長より説明が行われ、満場一致で設立が認められました。

総会の後は、東京大学特任研究員幡 建樹先生による「持続的森林管理を実現するための木材サプライチェーンの構築に向けて」と題した講演が行われました。

当会議の運営により、山元への利益還元やいわき産材の継続的供給体制の構築等、持続可能な森林・林業の実現に向けた取り組みの推進が期待されます。(森林林業部)

「緑の募金」街頭募金を実施

〔4月20日(土)〕

いわき市緑化推進委員会主催の「緑の募金」街頭募金がアクアマリンパークにおいて行われました。

毎年、4月1日から5月31日までの「緑の募金運動推進期間」の一環として開催されており、今回は、いわき市立汐見が丘小学校緑の少年団、サンシャインガイドいわき、磐城森林管理署、いわき市森林組合、県造園建設業協会いわき支部、いわき農林事務所が参加しました。

当日は、汐見が丘小学校緑の少年団22名をはじめとした参加者が、多くの方に募金の呼びかけを行い、募金者に感謝の言葉とともに緑の羽根や花の苗などを手渡しました。



(募金を呼びかける汐見が丘小学校緑の少年団)

緑の募金は、緑豊かな潤いのある美しいふくしまをつくるため、緑化の推進や次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに使われることから、「緑の募金」に御協力いただきますようお願いいたします。(森林林業部)

平成31年度いわき地方防霜対策本部を設置

〔4月1日(月)〕

県いわき合同庁舎において管内の関係機関・団体を参集し農業災害対策会議を3月28日に開催しました。



防霜対策本部看板設置の様子

会議では、平成30年度の農業気象災害の発生状況や、平成31年度における災害発生時の体制などについて確認と協議を行いました。

本部の設置は例年どおり4月1日から5月31日とし、4月1日にはいわき農林事務所へ防霜対策本部の看板設置も行いました。設置期間中、霜注意報の発令時には降霜の有無や農作物への被害状況を確認してまいります。

今年度も農業災害の無い1年を祈るとともに、農業災害発生時には皆様の御協力を頂きながら、迅速な対応を進めてまいります。(農業振興普及部)



(会議の様子)

森林保全巡視員委嘱状交付式を開催

〔4月1日(月)〕

県いわき合同庁舎において、森林保全巡視員委嘱状交付式をとり行い、いわき農林事務所長より新任3名を含む9名の方に委嘱状を交付しました。続いて、いわき地方森林パトロール協議会を開催し、効率のよい巡視業務の実施に向けて関係機関との情報交換を行いました。

これからの時期、多くの方が森林に入り自然を楽しむ機会が増えてきます。森林の豊かな恵みをいつまでも受けられるよう、森林保全巡視員には今後1年間、いわき地方の保安林や県営林において、森林内の気象害や病虫害の発見、無許可の伐採や開発行為の発見といった巡視活動とともに、入山者に対する山火事防止の啓発活動をしていただくこととなります。(森林林業部)



(森林保全巡視員委嘱状交付式)

沼之内魚市場で新型製氷設備の供用開始

〔4月3日(水)〕

いわき市漁業協同組合では、水揚げされる魚介類の高鮮度と付加価値向上を目的に、県の競争力強化支援事業を活用してシャーベットアイス製氷設備を導入し、4月より供用を開始しました。この設備では、希釈海水を利用してシャーベット状の氷を製造し



シャーベットアイス使用例(アカムツ)

ます。従来使用していた砕氷と比較して、魚体表面に傷が付きにくく、急速かつ均一な冷却が可能、また、塩分濃度のコントロールにより体色の保持効果も期待されます。市場ではさっそくシャーベットアイスで冷却されたヒラメ、アカムツ、メバルが水揚げされ、仲買業者からも好評とのこと。今後は、夏のマアナゴ、冬のマダラなど多様な魚種での使用が想定され、水揚げ物の高鮮度・高付加価値化が期待されます。(水産事務所)



(シャーベットアイス製氷設備)

いわき大交流キックオフフォーラムを開催

〔3月21日(木)〕

いわき地方振興局では、いわきアリオスにて「いわき大交流キックオフフォーラム」を開催し、お昼の交流会では、高校生レシピコンテスト(いわき農林事務所主催)の入賞作品の振る舞いを行いました。

当日は、「いわキッシュ」「地元愛たっぷり♡イタリアンぎょうざ」「変わり種春巻き」「トマトのイタリアン風カップ Pasta」「カラフルトマトのレアチーズ」の5品を提供しました。地元の高校生が考えた、いわき産の食材を使った料理に参加者からも「美味しい」という声が多く聞かれ、交流を深めるきっかけとすることができました。



幅広い年代の方々の参加があり、みんなで美味しく食べながら交流を深めました。

今後もいわき農林事務所と連携し、様々な機会を通じて、いわき産農産物等の美味しさを発信していきます。
(いわき地方振興局)



第2回コンテスト
グランプリ受賞
「いわキッシュ」



第1回コンテスト 料理部門
ワンダーファーム賞受賞
「トマトのイタリアン風カップ Pasta」



第1回コンテスト スイーツ部門
グランプリ受賞
「カラフルトマトのレアチーズ」

トピック1

夏井地区ゲートポンプ運用開始

〔4月15日(月)〕

復興基盤総合整備事業夏井地区において、昨年度の下高久排水機場(滑津川左岸)に次いで、今年度は南横手(大越藤間第二増設)排水機場(φ400×2台,藤間川下流)と留塚排水機場(φ300×2台,夏井川右岸)が運用を開始しました。両機場ともゲート(樋門)に電動ポンプが取り付けられたゲートポンプ式排水機場です。排水継続能力と操作性に優れ、場所を取らず、洪水時だけでなく常時の排水にも対応していて、震災で沈下した耕地の浸水防止や乾田化に役立ち、作物の増収につながると期待されています。当地区で造成予定の3排水機場は全て竣工し、運用を開始しました。

(農村整備部)



(留塚排水機場)



(南横手排水機場)

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.14

地域の農業を支える種苗店！農業のお悩みをサポートします。

矢吹種苗店 やぶきまこと 矢吹 允 さん

前回取材にご協力いただいた根本さんから紹介のあった、市内平下神谷の種苗店で地域の農業を支えている矢吹允さんにインタビューしました！

種苗のことならお気軽にご相談を！

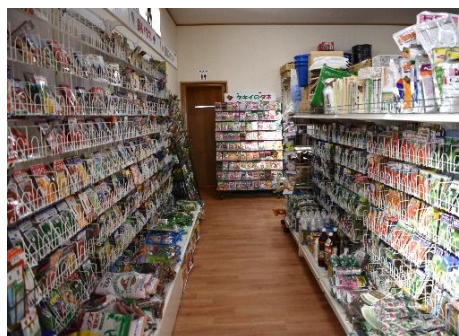
矢吹さん：私たち矢吹種苗店では、野菜や花の種を1000種類以上、苗を200～300種ほど取り扱っており、そのほか肥料、農業機材など、農業に必要な様々な資材を取り揃えております。今は、通販でも作物の種や苗を購入できてしまう時代ですが、店頭販売の良さは、お客様と直接お話ができることです。お客様の疑問や課題を解決する手助けができるよう、質問や相談に対する丁寧な対応を日々心がけています。



インタビューにご協力いただいた
矢吹允さん(30)

いわきの農業への熱心な思いが、信頼に繋がっています

矢吹さん：私自身は、県外のサラリーマン家庭に生まれ育ちましたが、高校時代に農業分野に関心を持ち、農大に進学しました。震災の時、現在の妻の実家である矢吹種苗店の手伝いをするようになり、平成25年に婿入りして現在に至ります。



(店内には様々な種がずらり！)

当時は、いわき市外の出身であることや年齢が若かったこともあり、お客様の信頼を得るまでに時間がかかりましたが、最近はだんだんと相談もしていただけるようになってきているのかな、と感じています。また、いわき農業青年クラブ連絡協議会では、様々な農作物について勉強していることもあって、地元の幼稚園等での食育活動「やさしい教室」など、子供たちに農業の魅力伝える活動にも力を入れています。

お客様の喜びの声を糧に、勉強の毎日！

矢吹さん：野菜や花の品種は、毎年次々と新しいものが増えていくので、常に勉強して知識を更新しなくてはなりません。また、農作物は年によって生育状況や栽培方法が変わるので、私たち自身も試験的に米や野菜を育て、その年の気候や害虫等の特徴を把握するよう努めています。だからこそ、接客したお客様から「教わったとおりにしたら、生育がうまくいった」というご報告をもらったときは本当に嬉しくて、達成感とやりがいを感じますね。中には、収穫した成果物を持ってきてくださる方もいらっしゃるんですよ。



(熱心に接客する矢吹さん)

コミュニケーションを大切に、地域の農業を盛り上げたい

矢吹さん：震災以降、多くの若手農家さんが辞めてしまい、8年経過した現在でも、農家さんが増えているようには感じません。市内の種苗店もずいぶん減少してしまいました。そんな中で最近考えるのは、今まで以上に地域の農家さんとのコミュニケーションを大切にしていきたい、ということです。お客様には店まで足を運んでいただいておりますが、配達以外で農家さんに足を運ぶことはほとんどないので、ときどき様子を見に伺って、お話しできる機会を増やしていけたらと思っています。農家さんに寄り添って一緒に課題を解決し、農業を盛り上げる一助になることが、私たちの役目だと思っています。

矢吹種苗店

所在地：いわき市平字神谷字本内 56-3

TEL/FAX：0246-85-5315

e-mail：info@yabuki-seed.jp

ホームページ：https://www.yabuki-seed.jp/

facebook：https://ja-jp.facebook.com/yabukishubyo/



トピック2

ほ場整備事業の進め方について

平成30年度に国が新たな「ほ場整備事業」（農地中間管理機構関連農地整備事業）を創設したこともあり、市内各所でほ場整備事業実施の機運が高まっています。ほ場整備事業実施にあたっては、



(ほ場整備説明会の様子(H31年3月))

地域の合意形成はもちろんのこと、調査計画（2箇年）の実施、その後の国ヒアリングを経て採択、着工という流れになります。

新たなほ場整備事業では、採択にあたって地域の合意形成（同意）、担い手農家への集約化（農地利用集積）の他に高収益作物の導入（販売額増）等が求められます。地域において話し合いを行う際には、これらについても話題にしてください。事業内容について詳しく知りたいときは、いわき市農地課を通じてお声がけください。（農村整備部）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成31年3月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成31年3月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した5品目23検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）10、
ふきのとう（野生）2、牛肉 6、
豚肉 1、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（3月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成31年3月の水産物モニタリング検査では、577検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成31年3月には99.8%となっています。4月15日現在の出荷制限等指示魚種は表の5種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限

サクラマス	ムラソイ	カサゴ
ピノスガイ	コモンカスベ	

注：平成31年4月15日現在

農作業中の事故にご注意ください！

春の暖かな陽気が感じられる季節になってまいりました。生産者の皆様におかれましては、トラクターに乗る機会も増えていることと存じます。

農業分野では全国で毎年約350名の方が農作業中の事故で死亡しており、その約7割は農業機械に関連するものです。中でも乗用トラクターによるものが多数を占めており、今年度4月初旬にいわき市内において発生した死亡事故もトラクターによるものでした。事故はどんなに気を付けていても発生する可能性がありますので、生産者の皆様におきましては安全第一を念頭に、そして心にゆとりを持ち、決して焦らずに作業くださいますようお願い申し上げます。（農業振興普及部）

林野火災にご注意！

新年度が始まりましたが、まだ空気が乾燥しているこの時期は火災が発生しやすく、強風時には大面積に広がる恐れがあります。4月9日には郡山市で約100haを焼く林野火災が発生しました。

3月1日～5月10日の期間は、いわき地方の山火事防止強化月間となり、関係機関や団体と共にのぼり旗の設置やチラシ等を活用し、入山者等に山火事防止の広報活動を行っております。

皆様も山では「火を使わない」ことを心がけて、火事を起こさないよう十分注意して下さい。（森林林業部）



GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

平成31年度GAP推進体制紹介

平成31年度も当所では、本県農林産物の信頼向上に向け、所を挙げてGAPの普及拡大を推進してまいります。具体的には、卸売業者・JA・市・県で組織する「いわき地方GAP推進協議会」や、当所所長・各部長等で組織する「いわき農林事務所GAP推進会議」、普及指導員が現場での指導方法を協議する「いわき農林事務所GAP推進チーム会議」により、産地全体での推進体制を確立し、粘り強くGAPの取得支援を行ってまいります。

また、主担当課である農業振興普及部経営支援課の担当者は、今年度から乗田・穴澤の2名となりました。皆様のGAPの取組、認証取得に向けてあらゆる角度からサポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。(農業振興普及部)

トピック3

水産海洋研究センター 新庁舎が完成

平成27年度から整備を進めていました水産海洋研究センターの新庁舎が3月19日に竣工しました。新たな施設では、魚介類への放射能物質の影響を調査する放射線モニタリングを始め、放射能汚染のメカニズムの調査研究などの原子力災害に起因する研究課題に的確に対応するとともに、県産水産物の優位性の調査研究、加工品開発に向けた実験などに加え、新たに水産試験研究の中核拠点としての機能を強化していきます。

今後、7月(予定)の供用開始に向け、準備を進めてまいります。(水産海洋研究センター)



一般研究棟

延床面積 598 m²(1階・2階)

放射能研究棟

1,209 m²(1階・2階)

放射能飼育実験棟

106 m²(1階)

倉庫車庫棟

277 m²(1階・2階)



転入者一覧

4月から、いわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センターへ着任した職員を紹介します。

〈いわき農林事務所〉

職名		名前
所長		松房 政彦
総務部	主幹兼副部長兼総務課長	坂本 桂次郎
	専門技術管理員	藤原 浩幸
	主査	丹野 利倫
	主事〈新採用〉	加藤 大貴
	企画部長	矢吹 秀明
企画部	地域農林企画課長	倉沢 伸郎
	技師	高橋 元紀
	主事	佐藤 峻海
	主事〈新採用〉	梅宮 詩帆
	農業振興普及部	農業振興普及部長
副部長		酒井 隆
地域農業推進課長		土屋 貴史
経営支援課長		大甕 祥子
技師		長谷川 亮介
技師		薄葉 孝太郎
技師〈新採用〉		佐藤 越萌
技師〈新採用〉		佐藤 寛人
農村整備部	副主査	大友 庄平
	技師〈新採用〉	佐藤 友映
	専門員	高萩 勇雄

職名		名前
森林林業部	森林林業部長	鈴木 孝
	林業課長	阿部 正久
	主査(林業課キャップ)	高橋 伸二
	森林土木課主任主査	金成 祥実
	技師	黒澤 文彦

〈水産事務所〉

職名		名前
所長		水野 拓治
次長兼漁業振興課長		平田 豊彦
主査		高木 淑子
専門員		櫻村 郁雄
主査		渡辺 透
主事		千野 力
専門員		松本 育夫
主査兼一等機関士		宗形 順一

〈水産海洋研究センター〉

職名		名前
所長		涌井 邦浩
副所長兼海洋漁業部長		山本 達也
放射能研究部長		神山 享一
主任研究員		鷹崎 和義
主査兼一等機関士		福林 悠

いわき農林事務所の新規採用職員からひとこと

4月から、いわき農林事務所に配属となった5名の新規採用職員に、今後の意気込みを聞いてみました！

総務部 加藤 大貴

いわき生まれ・いわき育ちのいわき人で、地元で仕事できるのを嬉しく感じます！仕事を覚えることで精一杯ですが、先輩に教わりながら一日も早く仕事をこなせるよう、頑張りますのでよろしくお願いいたします！

農業振興普及部 佐藤 越萌

右も左も分からない新参者ではございますが、事務所内の仕事を把握し、いち早く仕事内容を理解できるよう勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

農業振興普及部 佐藤 寛人

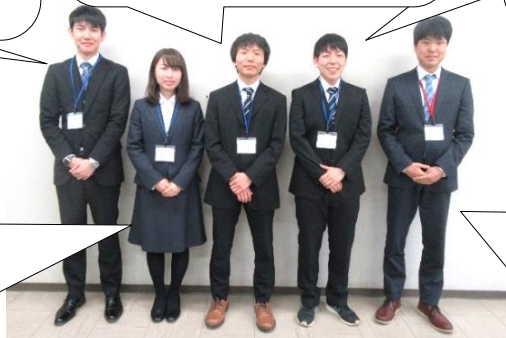
いわきはあまり馴染みがなかったのですが、とても過ごしやすい所で感動しております。早く仕事を覚えられるよう精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします！

企画部 梅宮 詩帆

いわきに住むのは初めてですが、社会人としての第一歩をいわきで迎えられることに縁を感じています。いわき農林水産ニュースの編集をはじめ、広報担当として幅広く情報発信していけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします！

農村整備部 佐藤 友映

いわきは大きないい街ですね。良い気候と聞きますが、夏・冬の気温や虫とのエンカウントは心配であります。みなさんにご指導いただきながら精一杯、そして真面目に仕事に取り組みたいです。よろしくお願いいたします。



いわき産酒造好適米「夢の香」を100%使用した 純米酒「ハタチ酒」をご紹介します！

20歳前後の若い世代に酒米の栽培から日本酒の仕込みまでを体験してもらい、日本酒の魅力や地元の酒文化について理解を深めてもらうことを目的に、市内の酒販店9軒は「いわきハタチ酒プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、市内の太平桜酒造合資会社の協力を得て、純米酒「ハタチ酒」(福島県オリジナル酒造好適米「夢の香」を使用)の販売を始めました。

3月3日の第1弾「おりがらみ」の発売を皮切りに「生原酒」(4月上旬発売)、「火入れ原酒」(4月下旬発売)、「火入れ加水版」(発売時期調整中)と味わいを熟成させながら販売していきます。

日本酒本来の味わいに加え、適度な酸とジューシーさを兼ね備えた逸品です。「ハタチ酒」は右記の実行委員会酒販店で販売しておりますので、是非ご賞味ください。



参加学生と実行委員会メンバー

純米酒「ハタチ酒」おりがらみ/生原酒



- 精米歩合 60%
- アルコール度 17度
- 販売価格(いずれも税込)
1800ml 3,024円
720ml 1,512円

※写真は「おりがらみ」

販売店舗

- あわのや酒店 / 平大工町11-8 ● 酒のいとう / 勿来町窪田町通 2-125-1
- 酒のしのぶや / 平塩字風内105 ● 酒のまるとみ / 小名浜大原西細野地40-1
- さわきや / 平中町23-3 ● タイヘイ酒店 / 常磐下湯長谷町シザ72-1
- 竹屋酒店 / 平下高久字牛轡18-1 ● 丸伊酒店 / 平字四町目9-3
- 矢吹酒店 / 平六町目2-9

編集後記

4月も終盤になり、暖かな春の陽気が続いている今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？新年度が始まり、いわき農林事務所・水産事務所では新たなメンバーを迎え、新体制でのスタートとなりました。

平成が終わり、新しい時代「令和」が始まる節目となる今年度。明るい時代になることを願いつつ、職員一同、気持ちを新たに、いわきの農林水産業の更なる発展を目指して取り組んでまいります。そして本誌でも引き続き、いわきの農林水産業に関する様々な情報をお届けしてまいりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース